

第六次総合計画の考え方

改定主旨

平成28（2016）年度に第五次藤井寺市総合計画を策定し、「つどいつながり 育つまち ふじいでら」を将来像に掲げ、「住みたい」「訪れたい」「住み続けたい」と幅広く市内外の人々から選ばれるまちを目指して取組を進めてきた。

その後8年が経過し、全国的に人口減少、少子化・高齢化が進み、高度情報技術の発展によるデジタル化が急速に進展するなか、住民の暮らしにおける生き方や価値観が変化してきており、行政への期待や行政が果たすべき役割も変化しつつある。

本市においても他の地域と同様に人口減少、少子化・高齢化が進んでいるとともに、経済活力の低下、公共施設や都市基盤の老朽化、厳しい財政運営が課題となっている。

このような社会経済情勢の変化や市民ニーズに的確に対応しながら、市民や事業者と一体となってまちづくりに取り組んでいくため、第六次藤井寺市総合計画を策定し、市として目指すまちの将来像やまちづくりの基本的な方針を示めす。

現在別に策定されている「デジタル田園都市国家構想総合戦略に基づく地方版創生総合戦略」及び「藤井寺市シティプロモーション戦略」については、本計画と方針を統一的に示すため、統合する。

総合計画改定の基本的考え方

●視点

- 本市の目指すまちづくりの方向性について、多様な主体の意見を反映し、市民の共感が得られること
- これまでの行政や市民・事業者の取組を強みに、連携してすすめること
- 藤井寺市の強みや特性を踏まえ、SDGsを意識して、持続可能なまちづくりを進めること
- 市民にわかりやすく、明快であること
- 実効性を意識すること

●時間軸

- 計画期間は8年間とし、令和13（2031）年度末のまちづくりをゴールとして設定

藤井寺市がめざすまちのイメージ

市の強み・特性

- ・ 大阪市内への好アクセス（15分）
- ・ コンパクトな市域（8.89km²）
- ・ 良好な住環境
- ・ 豊かな歴史資産（葛井寺・道明寺・道明寺天満宮・伴林神社、古市古墳群など）
- ・ 市民協働や公民連携によるまちづくり
- ・ 人口千人あたりの飲食店数は府下4位
- ・ 美容室全国チェーン店の本社あり
- ・ 小売業、不動産業の店舗数が多い
- ・ かつては藤井寺球場があった（跡地は学校）

外部環境

- ・ 大阪・関西万博の開催
- ・ 古市古墳群の世界遺産登録
- ・ ウェルビーイングの重要性の高まり
- ・ デジタルの力を活かした地方創生の加速化・深化
- ・ 持続可能な社会の実現
- ・ 2050年の脱酸素の実現（温室効果ガスゼロ）
- ・ 単身高齢者世帯の増加

市民ニーズのキーワード

- ・ 快適さ、閑静で住みよいまち、文教都市、歴史・文化、子育て、道路整備、公園、空家対策など

市の主な課題・要因分析と その打ち手

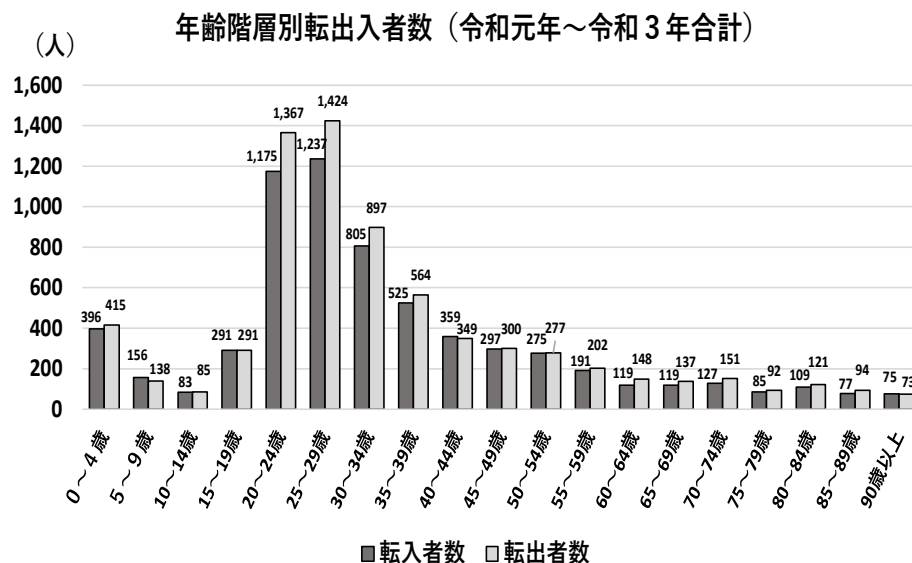
人口減少・高齢化・少子化

市の課題

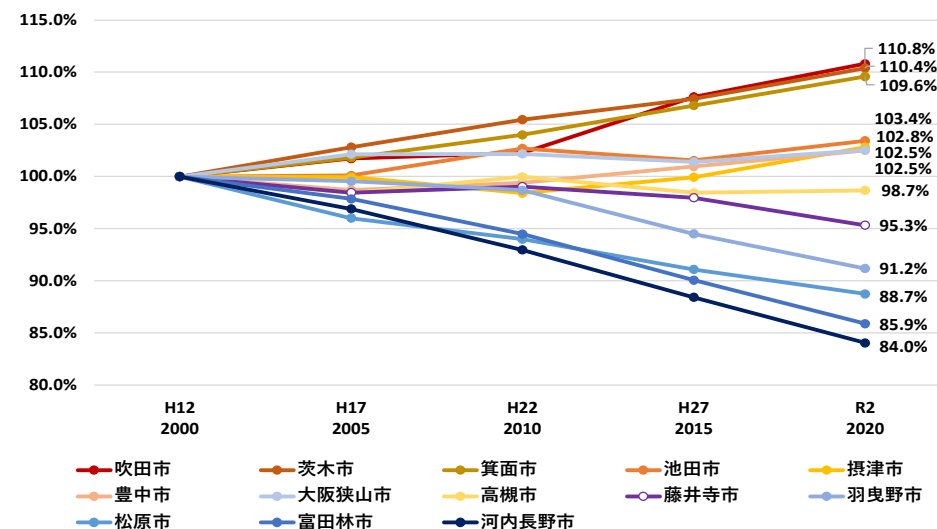
- ・ 若年層の市外転出
- ・ 南河内エリアの人口減少
- ・ 高齢化による各種仕組みの維持

要因

- ・ 就労場所へのアクセスが悪い
- ・ 南河内エリアの更新されない街並み
- ・ 生産年齢人口に依存した仕組み



人口増減率の推移



必要な打ち手

- ・ 良質な住宅都市としての都市イメージの確立、向上
- ・ 高い高齢化率を前提とした仕組みの見直し（健康寿命の延伸、都市環境整備）

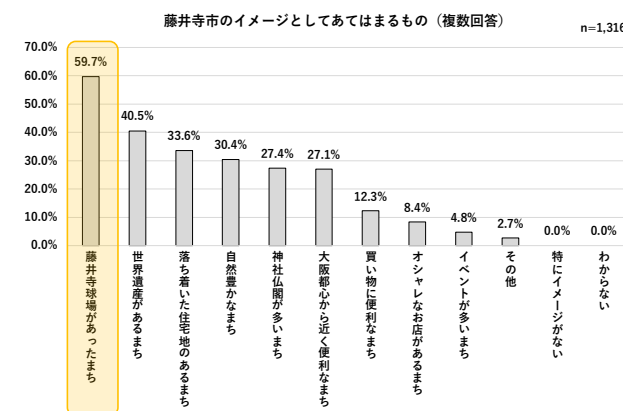
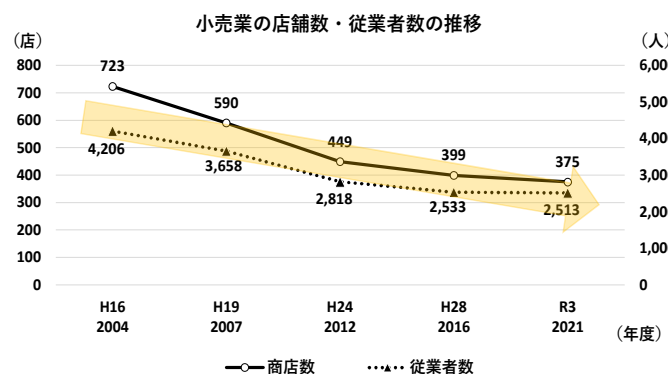
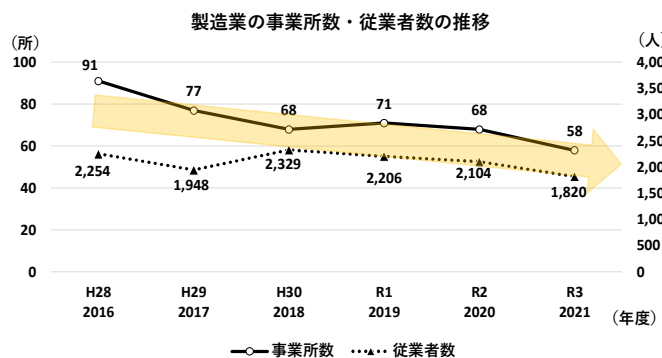
経済活力の低下

市の課題

- ・ 製造業、小売業の事業所数、従業員数の減少
- ・ 名産品やランドマークなど市の特徴が少ない

要因

- ・ 地価が高く、昼間人口が少ないため、大規模な商業立地に向かない
- ・ 狭い市域のほとんどが宅地であり、工場立地に向かない
- ・ ハード、ソフト両面で観光整備ができていない



必要な打ち手

- ・ 市街化調整区域の準工業地域への用途変更
- ・ 普段使いを意識した「まちなか観光」の振興
- ・ 交流人口増加による、魅力的な商業立地づくり

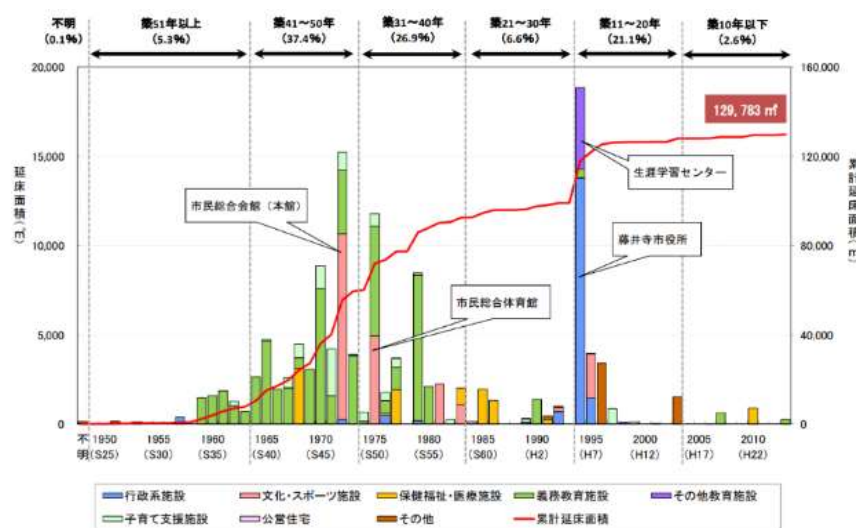
公共施設や都市基盤の老朽化

市の課題

- ・ 公共施設やインフラの老朽化
- ・ 空家の増加

要因

- ・ 巨額投資が難しい市の財政状況
- ・ 統廃合に向けた住民合意の困難さ
- ・ 所有者の高齢化、土地価格の相対的低下



必要な打ち手

- ・ 行財政改革の着実な実施（市有財産の活用など）
- ・ 市民協働、共創のまちづくり
- ・ 良好な住宅都市イメージの確立、向上（空家対策）

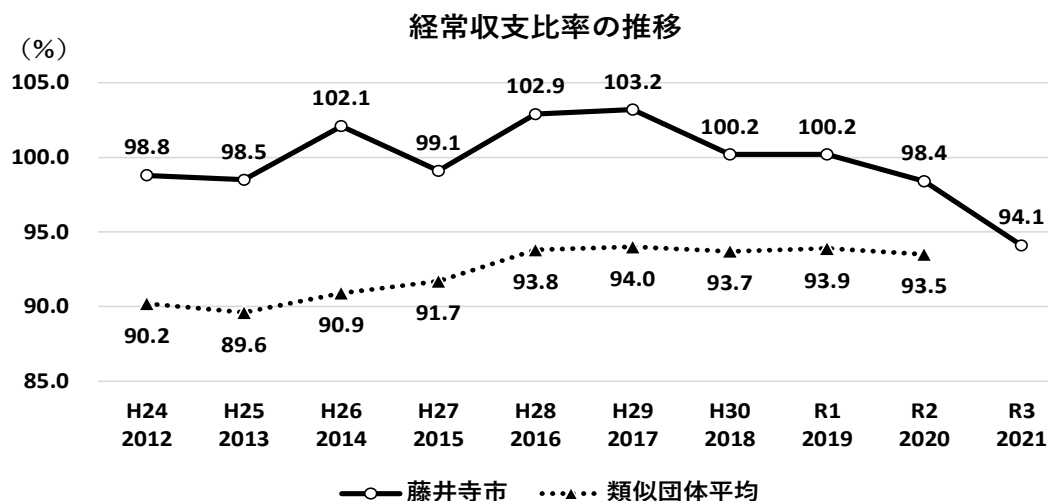
厳しい財政状況

市の課題

- ・ 乏しい財政調整基金
- ・ 高い経常収支比率
- ・ 公共施設等を廃止する場合も、一時的な財政負担が必要

要因

- ・ 大規模企業が少ないため、固定資産税が少ない
- ・ ふるさと納税額も低い
- ・ 直営部門が多いことからくる職員数



出所：本市「財政状況資料集」を参考として作成

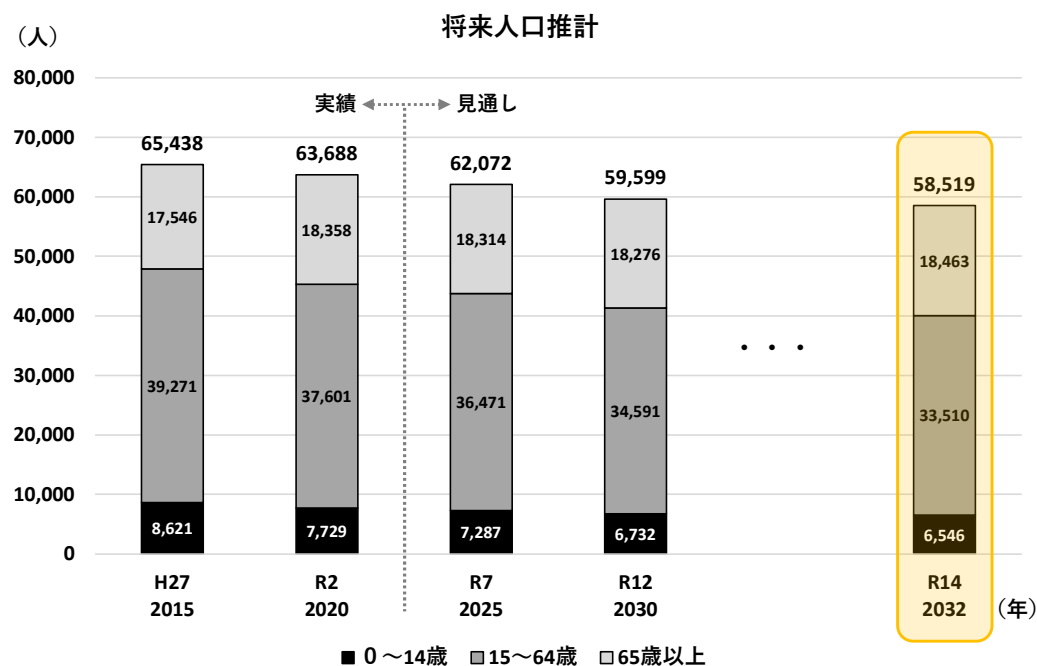
必要な打ち手

- ・ 行財政改革の着実な実施
- ・ 固定資産税、市民税を引き上げる施策展開

計画の基本フレーム

将来人口展望

本市の人口は緩やかに減少を続けており、国立社会保障・人口問題研究所による将来人口推計によると、令和14（2032）年の人口は約5.9万人になると見込まれている。
また、年少人口（0～14歳）及び生産年齢人口（15～64歳）の割合が減少する一方、高齢者人口（65歳以上）が増加すると予測。



人口減少・少子化・高齢化は、市税収入の減少、地域の担い手不足、扶助費の増大による財政の圧迫、都市の低密度化といった問題を引き起こす可能性がある。

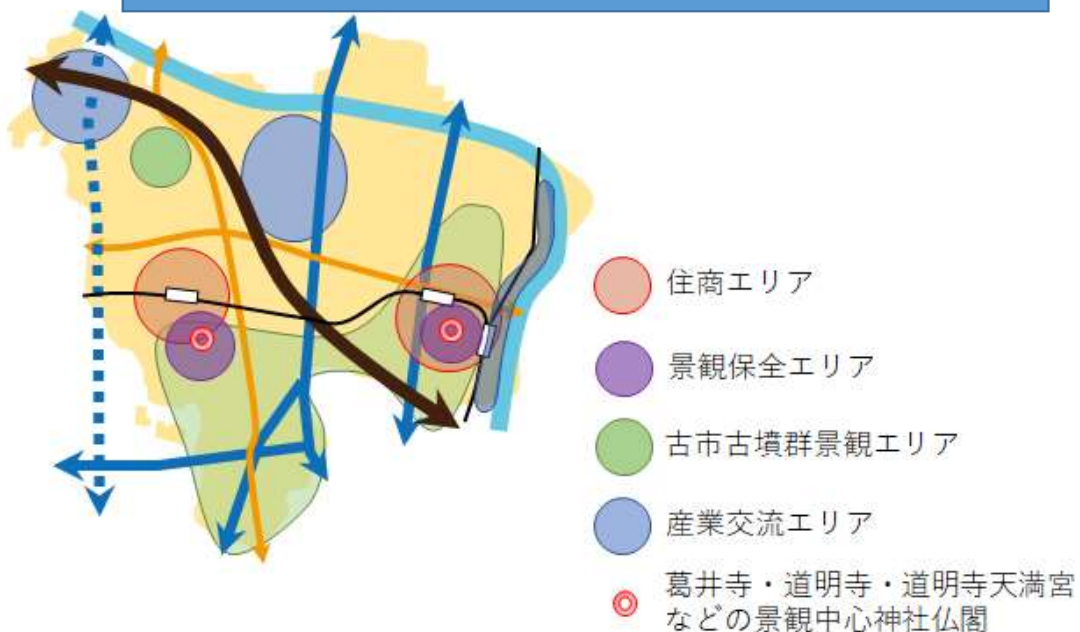
人口構造のバランスが取れた持続可能なまちを目指し、子育て世代への支援や若年層の移住・定住促進と高齢化対策としての福祉施策の充実を両輪で展開

都市づくりのイメージ

現状 と 課題

- ・コンパクトな都市づくりにおいて、拠点となる藤井寺駅周辺、道明寺駅周辺の都市づくり
- ・本市の特徴である厚みのある歴史・文化の蓄積を都市づくりに展開
- ・古墳群の緑の連なりを核に、自然空間の保全と実感できる緑の創出
- ・住宅地としてのブランドを形成し、定住を図る
- ・良好な景観など、空間面でのまちの魅力を守り、高めていく
- ・すべての市民が快適に生活できるような住環境（歩きやすいまちづくりなど）に向けた検討

都市づくりのエリアイメージ



3つの都市づくりのイメージ

- 1、駅周辺の拠点づくり
- 2、歴史・文化・みどりを活かした都市づくり
- 3、人に優しい環境づくり

計画の基本構想

【将来像】

～人と歴史が活きる未来へ～
笑顔と活気に満ちた快適なまちふじいでら

笑顔

子どもから高齢者まで市民の誰もが心身ともに健やかに暮らし、また子育て、教育、就労、介護などライフステージに応じて、歴史ある、落ち着きあるまちとしての安心を実感し、互いの違いを尊重しながら、ともに支え合うことのできる優しさと笑顔があふれるまちを目指す

活気

古墳群・神社仏閣等の歴史資産といった本市の魅力を最大限に活かして多くの人が訪れるまちとするとともに、市民がコミュニティやイベントを通じて活発に交流できるような、にぎわいとわくわく感あふれる大好きなまちを目指す

快適

大阪都心からの優れたアクセスや豊富な歴史資産を有し、ゼロカーボンで自然に優しい良好な住環境を、デジタル技術の活用等を通じて、これまで以上に住みたく・住み続けたく・生活できる居心地のいいまちを目指す



市民一人ひとりのウェルビーイングを高める

今後市がどのような施策を実施していくかの基本的スタンスとして、以下の3つを設定

①世界遺産やふじいでら独自の歴史文化を活かす

葛井寺、道明寺天満宮をはじめとした神社仏閣、世界遺産古市古墳群などの歴史文化の発信や、それらを活用した観光魅力の創出を通じて、さまざまな目的で本市を訪れる人々に、まちなかを周遊してもらうことで、市内の商業地域や市民の活力と魅力あるまちづくりにつなげる

外部への情報発信を通じて、市民自らが魅力ある地域資源を再発見することで、観光に対する市民の意識とまちへの愛着心を高め、まちのイメージアップ・知名度アップに取り組む

②市民や企業等と連携し、良質な住宅都市としてのイメージ形成

市民や企業とともに、まちなみ景観の保全や市民マナーの向上、SDGsの推進、快適な生活の実現に向けて、市民同士の支え合いの促進などに取り組み、歴史的なまちなみをもつ、落ち着いたの良質な住宅都市としてのイメージを確立し、都市イメージを向上させる

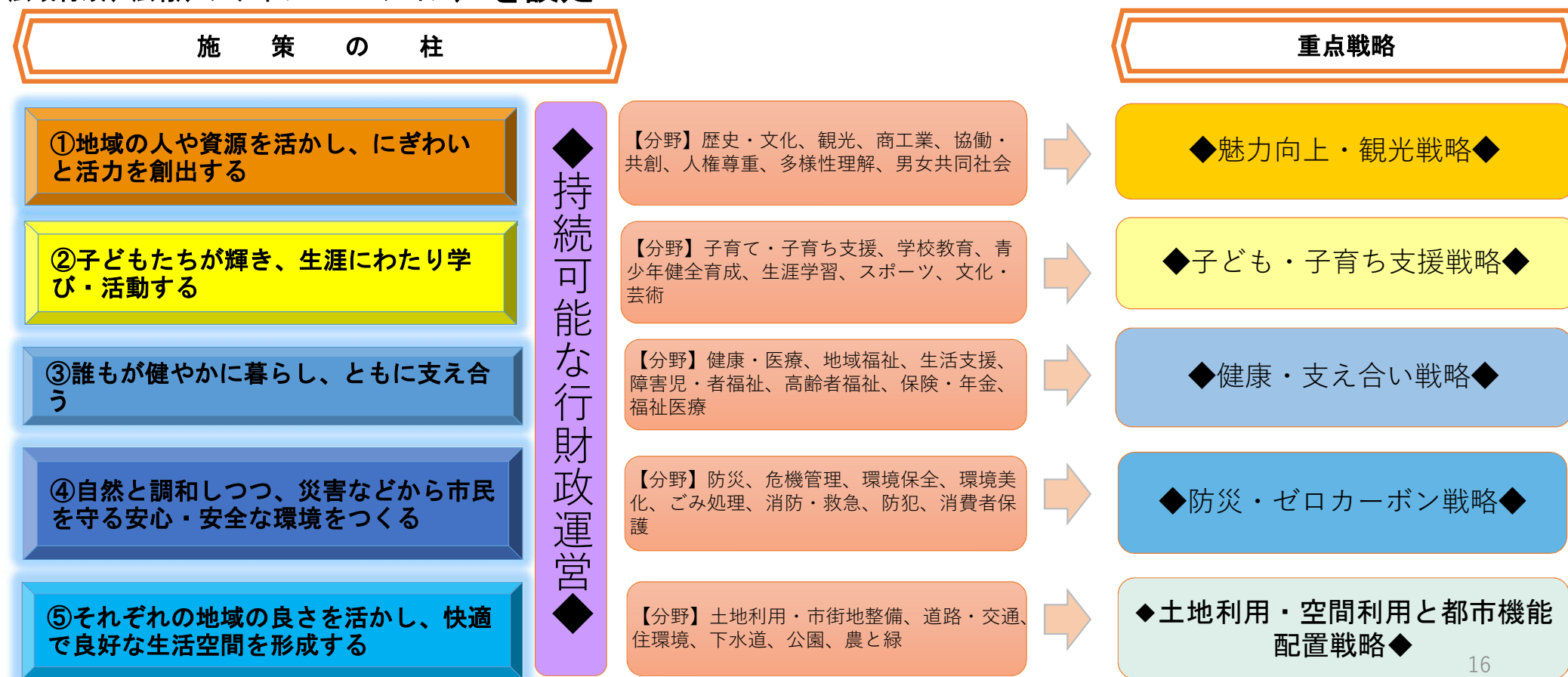
③未来への投資を通じて、成長を支援

経済活力が低下していることから、開通予定の八尾富田林線沿道のまちづくりを通じた産業交流核の形成や、デジタル社会への融合などの産業への支援や、未来を担うこどもたちへの投資として、一生役に立つ力を身に付ける環境づくりに取り組む

施策の柱と重点戦略

○ 5つの施策の柱とその柱の重点戦略を設定

それらの前提・土台として「持続可能な行財政運営」（【分野】行政組織、人材育成、自治体DX、財政運営、広域行政、広報、シティプロモーション）を設定



○世界遺産「古市古墳群」や豊富な歴史遺産を保全し、またそれらの価値を国内外に広く発信するとともに、整備を進め、歴史文化の薫るまちとして内外から認知されるまちを目指す

主な取り組み)

世界遺産の保全と活用、史跡等の保護と継承、文化財情報の発信

○市民や近隣住民の普段使いを重視したまちなか観光コンテンツを充実させるとともに、大阪・関西万博や、大阪観光のプラスワンを意識した情報発信を通じて、市民・事業者のまちへの愛着の向上や来訪者との交流促進を目指す

主な取り組み)

観光拠点づくり、観光資源の魅力発信、来訪者の利便性向上

子ども・子育て支援戦略

○子どもの教育・保育環境の充実や、地域や社会が子どもや子育て世代に寄り添い、支える環境をつくることで、子どもも大人も孤立させない、子育て・子育てしやすいまちを目指す

主な取り組み)

就学前教育・保育の推進、子ども・子育て当事者の視点に立った取組の推進、切れ目のない相談体制の充実、子育て・子育てを支える環境づくり

○すべての子どもの可能性を引き出す教育に向けて、個別最適な学びと協働的な学びを実現させ、主体的に学びに取り組めるように、教育環境が整ったまちを目指す

主な取り組み)

確かな学力の育成、個に応じた教育支援の推進、学校施設の計画的な整備

○市民一人一人の健康についての意識を向上させ、生きがいをもって、健康で長生きできるまちを目指す

主な取り組み)

各種検診（健診）受診率の向上、ライフステージに応じた健康づくり支援、地域医療体制の確保

○地域における福祉活動や団体等の認知度の向上や、新たな担い手による地域福祉活動の活性化により、市民相互の支え合いの意識を向上させるとともに、福祉関係機関等の連携により誰もが安心して暮らせるまちを目指す

主な取り組み)

地域福祉意識の醸成、市民相互の助け合いの推進、セーフティネットの推進

○日ごろから市民とともに災害への備えを行い、発災時や災害発生のおそれがある際には、適切かつ迅速な対応を図ることで、被害を最小限に抑えることができるまちを目指す

主な取り組み)

自然災害対策の推進、防災・危機管理意識の向上、関係機関との連携強化

○公害対策や、住環境を保全するための支援や助言、啓発ツールの提供を行うことで、良質で安全な生活環境を整えとともに、市民・事業者と一体となってゼロカーボンシティの実現を目指します。

主な取り組み)

地球温暖化対策の推進、生活環境の保全、環境美化の推進

土地利用・空間利用と都市機能配置戦略

○市のコンパクトさを活かしたまちづくりを進めるとともに、居心地がよく快適で良質な住宅都市として歩きたくなる都市空間を目指します。また、地域の活性化や賑わい、交流のある魅力的なまちづくりを目指します。

主な取り組み)

適正な土地利用の形成、魅力ある市街地の形成、良好な都市景観の形成

○道路等を、車、歩行者にとっても利用しやすい良好な状態に維持し、道路ネットワークの形成に取り組むとともに、本市にふさわしい公共交通を構築し、安全で快適なまちを目指します。

主な取り組み)

快適な道路環境の形成、公共交通の充実、交通安全対策の推進

持続可能な行財政運営

- ・限られたリソースの選択と集中を行うため、重点戦略ごとの推移イメージを設定
- ・持続可能な行財政を実現するための取組視点を6つ設定

